

下野市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間
平成31年度(2019)～平成40年(2028)

下野市は、栃木県の中南部、関東平野の北部に位置している。西部に^{すがたがわ}娑川・^{おもいがわ}思川、東部に^{たがわ}田川・^{きぬがわ}鬼怒川が南流し、河川に接した低地には水田地帯、低地と対になる台地上には300年の生産の歴史をもつ^{かんぴょう}干瓢生産のための夕顔畑が広がり、豊かな農業景観を形成している。本市は、古代における^{とうさんどう}東山道の整備や^{しもつけのくに}下野薬師寺、^{しもつけのくに}下野国分寺・^{しもつけのくに}尼寺の建立によって古代^{しもつけのくに}下野国の政治・文化の中心地として繁栄し、発展してきた。現在、下野薬師寺、下野国分寺・尼寺の寺跡は国の史跡に指定されており、地域の人々により継承・保護活動が行われている。また、市内に点在する寺社では、現在も^{てんのさま}天王様(八坂祭)などの祭礼、^{たぐさ}太々神楽が行われるとともに、^{ふらでっぽう}ワラデッポウと呼ばれる年中行事などの地域固有の祭礼行事が受け継がれ、下野市の歴史的風致を形成している。

1. 薬師寺地域にみる歴史的風致

下野薬師寺周辺の集落は寺院創建時から建設にかかわり、その後も寺院を支えるなど密接な関係あったと考えられている。周辺の集落と寺院との関係、そして周辺環境を含めた空間構造は下野薬師寺を中心に形成・維持そして継承され、特有の歴史的風致を形成している。

薬師寺における花まつり ▶



2. 国分寺地域にみる歴史的風致

国分寺地域は下野国分寺・国分尼寺が建立されるなど、古代の下野国の中心的な地域であった。現在、国分寺は場所を変えて引き継がれ、周囲の神社や平地林などと、この地域における信仰や伝統行事、日常生活などにおいて有機的な関係を保ちながら、特有の歴史的風致を形成している。

国分尼寺跡の除草活動 ▶



3. 天王様にみる歴史的風致

本市の八坂祭は、神社の祭神である^{ごぜてんのう}牛頭天王にちなんで「天王様」という愛称で地域の人々に親しまれている。天王様は市内のほぼ全域でみられ、特に薬師寺、本吉田、石橋、下古山、^{あしひら}小金井の5つの地域で規模の大きい天王様が行われている。祭礼当日は、各地域で^{かみ}神輿渡御が行われる。

薬師寺八幡宮における天王様 ▶



4. 太々神楽にみる歴史的風致

下古山星宮神社と橋本神社では、江戸あるいは明治期から続くといわれる太々神楽が毎年奉納されている。神聖な雰囲気の中、面をつけた舞手が舞う様子は、歴史的な風情を感じさせる。舞や演奏の技術は、保存会をはじめとする地域の人々によって受け継がれている。

下古山星宮神社太々神楽 ▶



5. 干瓢生産にみる歴史的風致

干瓢は300年もの生産の歴史をもつ本市の特産品である。市内の広範囲で生産が行われており、当地域の近代以降の経済発展に貢献したのみでなく、堆肥の原料となる落ち葉を供給する平地林と夕顔畑、干瓢生産の場である農家住宅が一体となった本市特有の文化的景観をつくり出している。

収穫された夕顔の実 ▶



6. ワラデッポウにみる歴史的風致

ワラデッポウは、^{わら}藁を束ねて^{わらでつぽう}縄を巻いた藁鉄砲(叩き棒)を作り、子どもが集団で地区の家々へ行き、豊作を願う掛け声を唱えながら、藁鉄砲で地面を打つ行事で、吉田地区と薬師寺地区で継承されている藁鉄砲の制作は、学校や育成会の活動を通して、親やお年寄りから子どもたちへ伝承されている。

ワラデッポウの様子 ▶



